

たまっ子育成会議報告

昨年度に引き続き、より多くの人に「たまっ子プラン 多摩区こども支援基本方針」の周知を図るとともに、地区単位の子育て支援関係機関・団体や行政が、各々の活動や役割の理解、地区の課題の共有を行い、支援者同士が顔の見える関係を築き連携を深めていく機会として、南西部地域、東部地域、管地域の3地域で「たまっ子育成」会議を開催しました。

昨年度の「たまっ子育成会議」では各地域から、①「子育て孤立感」②「子どもの居場所づくり」③「支援のつながり」の三つの課題がキーワードとしてあげられました。また、そのほか、「必要時に実際の連携の進め方」「地域でできる事・できないこと事を明確にしつつ、どんな支援や連携体制が取れるか」等についても意見交換したいと希望が出されました。

地域に見守られながら孤立することなく、親子が育ち合えるためには地域で何が必要なのか、どのような工夫や仕掛けなどが必要なのか、同じ地域で子育てを支援している仲間として、意見交換を行いながら連携を深め、ともに安心して子育てができるまちづくりを推進していくことを目的として開催しました。

・開催日時・場所▶

南西部地域(生田)：平成27年9月3日(木) 15:00~16:30 生田出張所
東部地域(中野島・登戸・宮河原等)：平成27年9月7日(木) 15:00~16:30 多摩区役所
管地域(管)：平成27年9月14日(月) 15:00~16:30 至誠館なしのはな保育園

・参加団体・機関・行政▶

地域子育て支援活動団体、地域子育て支援センター、NPO法人、多摩区民生委員児童委員協議会、主任児童委員部会、公・民保育所、幼稚園、小・中学校、小・中学校PTA協議会、多摩区青少年指導員連絡協議会、多摩区子ども会連合会、こども文化センター、かわさきさくら児童家庭支援センター、社会福祉協議会、地域保健センター、多摩区役所保健福祉センター(児童家庭課、地域保健福祉課)、多摩区役所(生涯学習支援課、こども支援室)等

・会議内容▶

〇地域の子育て支援者同士のおしゃべり交流会

- ・子育ての孤立感への支援
- ・子どもの居場所づくり
- ・子育て支援のつながり
- ・提供できる資源・活用したい資源

※5人から10人程度の小グループに分かれて意見交換をしました。



参加者アンケート集計

※N：回答者数

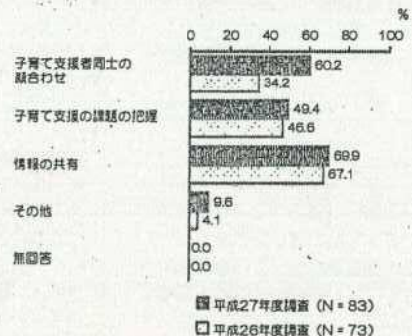
問1 本日の会議はいかがでしたか。



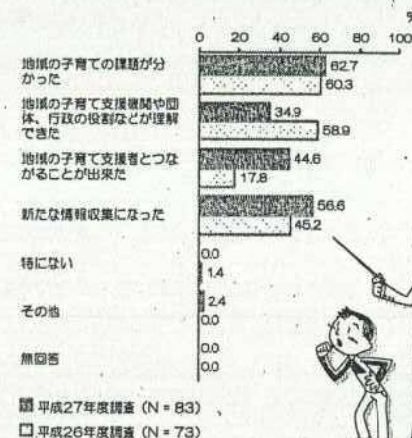
問3 今後もこのような会議は必要ですか。



問4 今後、取り組んで欲しいことは何ですか。



問2 今後の活動にあたって役にたったことがありましたか。



・昨年度に比べ「会議が大変よかった」と大きく評価いただきました。

・参加者のすべての方から「今後もこのような会議が必要」という回答をいただきました。

・今後の活動にあたって役に立ったこととして、「地域の子育て支援者となることが出来た」「新たな情報収集になった」が昨年度と比べて多く回答していただけていることから、同じ地域で子育てを支援している仲間として、支援者同士の顔合わせをはじめとし、情報の共有ができたことがうかがえます。

・今後、取り組んでほしいこととして、「情報共有」が最も高くなっていることから、このような会議の定期開催の必要性がわかりました。

たまっ子育て会議の意見



まとめ

普段から活動されている方が参加者だったため、実態に即した現実的な課題や問題が提起され、こうあるべきというより、こうやると良いのではないかと意見等がでました。

保護者にどう寄り添えるか、子どもの居場所づくり、子どもをどう見守っていきけるか、という意見が交わされましたが、課題としては次の2つに整理できます。

課題1・虐待予防の視点からの取組

課題2・様々な子育て支援事業に來ない人々へのアプローチ

課題解決に向けた取り組み

『妊娠期からのアプローチ』

- ・妊娠前から継続した支援を行い、安心して出産・育児ができる道しるべをつくる（母子手帳交付時の情報提供、マタニティサロン等で民生委員と顔合わせできる機会を持つ、必要な人にはこんにちは赤ちゃん訪問の回数を増やすなど）
- ・こんにちは赤ちゃん訪問から、地域の様々な子育て支援事業（ひろば等）へつなぐ

『拠点づくり』

- ・地域の拠点施設の活用紹介（コンフォール）
介護保険施設で地域カフェを実施し、子育て世代の参加もある。子どもがシニア世代に可愛がられ、母親も安心する様である。また、思春期の子どもも参加して役割を持つことで、良い効果がみられた。
- ・SOSを発することすら出来ない、支援を必要としている人を、地域だからこそ気付くことが出来る→地域がキャッチ出来る力をつける、つなげる力をつける
- ・情報は人から人へ伝えて、つないでいく。
- ・子どもの貧困に対する関心や問題意識が高まり、何らかの取組が必要ではないかという声も複数聞かれた。

今年度の「たまっ子育て会議」は会議終了後も、あちらこちらで参加者の方々の話が終わず、日頃の子育て支援活動を通じて、情報を共有している姿が見られました。

会議運営にあたってのご意見



- ・グループ検討だったので、より深い話ができてよかった。
- ・今回のような地域別に会議を行うことで、顔が見える支援者のつながりが大切だと思う。
- ・年1回だけでなく、せめて半年に1回でも開催していただくと、より課題の解決につながるのではないかと。
- ・課題についてもう少し深くどうしたら良いかを考えていけるとよい。
- ・今回出てきた課題をどのように具体策につなげていくか。個人情報のかべを乗り越えて人と人とが助け合えるのか。各々の立場・組織で考える必要がある。
- ・現在置かれている立場で何が出来るか。できることをしっかりと取り組み、次へのステップ（つながり）に進めるよう手助けができればと思う。
- ・実際の活動を見せただく機会などがあると、よりわかり合えるのかもしれないと感じました。
- ・乳児・幼児・小学生（中・高生）と世代別にグループ分けて情報交換をしてもよいのではないかと。
- ・“こんな時にはこの資源”みたいなものをみんなでつくるのもいいのではないかと。など



子育ての孤立感への支援

- ・出産後から幼稚園に入るまで、不安が高まる時期。その時期のケアが大切。
- ・孤立しているお母さんたちをつなげるサークルや行事がたくさんあるとよい。
- ・今は情報が不足しているわけではなく、情報過多の中で孤立している親がいる。



子どもの居場所

- ・子どもの遊び場があまりないのも、大人が制限している部分もあるのではないかと。（子どもの声がうるさい、ボールの音がうるさい、ボールを使っているなど）
- ・遊び場など子どもの環境も変わってきている。

- ・地域の見守る目、子どもだけではなく、お母さんにも向けてはどうか。地域の目があると、お母さんも安心感が持てる。

- ・子どもに泣かれるなどが、ストレスになっていて、家庭の中（専業主婦の人でも）に小さな孤立感がある。

- ・コミュニケーションを取るのが苦手、自分のことをうまく表現できないお母さんが増えてきている。
- ・支援センターに來れない、話せない人の方が問題は深い。

- ・子ども文化センターなど、いろいろな所に子どもの居場所をつくってもらっているが、スペース的な課題もある。
- ・子どもは遊びが生活ということを地域が理解したい。

- ・地域の大人と子どもが会った人に挨拶を交わす。大人もよるこぶ、子どもも安心、不審者対策につながる。これで、解決することは多いのではないかと。



子育て支援のつながり

- ・周りの励まし、声かけが大事。そのためには、地域や子育て仲間とのつながり、ネットワークを作っておくことが必要。

- ・幼児に培った人間関係を小・中・高と繋げていくためには、お祭り等、さまざまな催しで具体的なきっかけを作る。
- ・きっかけがない人をいかにつなげるかが非常に重要（地域の声かけやボランティア団体同士のつながりの強化）

- ・多問題家族への支援が必要。訪問時には聞かれるが、家庭が荒れている場合が多い。また、周知からの情報提供に頼るしかない。
- ・少子化の影響もあり、近所で同じ年代の子どもを持った人がおらず、悩みを共有する友人がいない人が多い。

- ・子どもは成長するが保護者を育てることは難しい。当たり前をやってもらうのも難しい保護者もいる。ひきこもっている人でもおとしめるスーパー等で相談する場があればよいのではないかと。

- ・大人同士の関係づくりが必要。特にお父さん同士のつながりが弱い、その受け皿が少ない。



- ・近所の子どもを知ること、子どもの泣き声が騒音ではなく、心配とかその子に對するやさしさに変わるのはいないか。
- ・地域の信頼関係づくりは、子どもが産まれる前や、産まれた直後から何年もかけてつくっていくもの。



- ・支援センターなどの役所の支援を受けても、地域では孤立している人もいます。

- ・地域のイベントやお祭りなどにまず参加してもらうことが必要。自分の回りのお子さんを知っているという事があると優しくできる。きっかけがない人をいかにつなげるかが非常に重要。（地域の声かけが大切。）

- ・顔のわかっていて信頼されている人から手渡されるチラシで「行こうかな」と思う。やはり、人の心と人のつながりの中で渡される情報や言葉の力にはとてもかなわない。

※ その他に多くのご意見をいただきましたので、掲載している意見は一部のものです。また、掲載されている意見と写真は整合をとっているものではありません。

地域福祉ネットワークづくり事業報告

1. 事業の目的

多摩区地域福祉ネットワークづくり事業は、地域住民同士や団体が防災を通してつながるイベント「防災ウォーク」の報告及び地域での事例活用を目的とした懇談会やパネル展示を通じて、地域のつながり・支え合いを推進し、今後の活発な地域福祉活動を行っていくための基盤づくりを行うものです。

2. 報告会の概要

(1) 名称：「多摩区防災ウォーク 事例報告会」

(2) 日時及び会場・参加人数

	第1回報告会	第2回報告会
日 時	平成27年12月 2日 (水) 13:30~15:30	平成27年12月10日 (木) 13:30~15:30
会 場	多摩区役所11階 1101会議室	生田出張所 3階大会議室
参加人数	27名	30名

(3) プログラム

- 1 あいさつ (多摩区地域保健福祉課)
- 2 多摩区における防災ウォークの取組報告 (多摩区地域保健福祉課)
- 3 発表

(1) 11月14日防災ウォーク実施報告

【第1回報告会】

山口 正芳氏 (長沢・南生田地区すこやか活動委員代表)
仁平 美幸氏 (生田第2地区民生委員協議会)

【第2回報告会】

山口 正芳氏 (長沢・南生田地区すこやか活動委員代表)
小泉 幸子氏 (生田第2地区民生委員協議会)

(2) 地域における取組

【第1回報告会】地域での防災安全対策の取組

廣岡 照憲氏 (稲田町会連合会)
杉原氏 (宿河原町会)
岡本 次郎氏 (宿河原町会)

【第2回報告会】地域における取組

三竹 隆雄氏 (稲田町会連合会)
井上 侑氏 (生田地区町会連合会)

(3) 地域包括ケアシステムについて (多摩区地域保健福祉課)

4 意見交換

テーマ：地域とのつながりづくりとして、現在行っていることややってみたいこと

5 意見の発表・まとめ



テーマ：地域とのつながりづくりとして、現在行っていることややってみたいこと

3. 第1回報告会意見交換（主な意見）

1グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・運動会 ・文化祭 ・あじさいまつり ・小中学校のあいさつ運動 ・高齢者の見守り活動 ・神社の清掃 ・盆踊り など	・防災訓練で炊き出しやAEDの操作 ・傾聴ボランティア、町内会での旅行 ・福祉施設などの見学会、ご近所カフェ ・地域の高齢者や一人暮らしの友愛訪問 ・保育園との身近なかかわりがもてるとよい ・3回以上会う人は町内に住んでいると思うので挨拶をするようにしたい ・町会行事に参加してほしい

2グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・盆踊り ・児童の見守りパトロール ・桜まつり、・子育てサロン ・魚のつかみ取り大会、・総合防災訓練 など	・高齢者とのお茶会 ・子育てサロンで音楽活動や絵本の読み聞かせなどの参加 ・認知症対策セミナー

3グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・納涼祭の協力 ・バザー ・どんど焼き ・子育て支援ハンピ ・たんぽぽ（高齢者） ・さんさん会（一人暮らし世帯） ・ハイキング、道路の草木の剪定、グランドゴルフなど、ほとんど毎月町会行事 ・お祭り（子どもが乗れる山車） など	・認知症の理解を深めていきたい ・防災倉庫を置く場所がなく困っている

4・5グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・気になっている人に時々連絡をとり、お裾分けしている ・自宅の庭でなったプラムをジャムにして近所の人に配る ・子ども会中心の運動会 ・魚のつかみ取り ・高齢者や一人暮らしの方へ声かけ、見守り ・町会役員会の定期開催（きずなを深めるため） ・囲碁 ・食生活改善推進員の活動 ・すこやか活動を通して近所の人と畑で野菜づくり ・あいさつ運動 ・福祉のつどい（発表会） など	・活動の根を広げていく ・ばらばらに活動しているグループの活動を広く周知徹底を図る ・イベントや行事の見直し・検討 ・防災ウォークや地域の実践的防災訓練 ・防災ウォーク（若い人の参加） ・地域の行事にできるだけ参加する



4. 第2回報告会意見交換（主な意見）

1 グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・秋祭り ・運動会 ・盆踊り ・ソフトボール大会 ・市内統一美化運動 ・餅つき大会 ・夜回り ・防災訓練 ・クリスマス会 ・公園の清掃 ・地域の見守り ・年末警戒 ・五反田川に鯉のぼりを泳がせる ・子育て支援 など	・ラジオ体操 ・防災組織づくり ・向こう三軒両隣の挨拶 ・餅つき ・神社境内に高齢者のおしゃべりの場を作る ・神社を中心に初詣や祭礼に多くの参加 ・五反田川に錦鯉を泳がせる

2 グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・町会の会館がないので定例会などは自宅でやったり自治会館を借りたりしている ・役員が固定化し、自宅持ち回りで負担になっている（親睦が深まる効果はある） ・マンションの役員が1年交代なので話がつかない	・町内会館がほしい ・自分の地区でどうすれば防災ウオークができるか（リーダー、進め方） ・餅つき大会や、朝の登校班の見守り活動で子どもからつながろう ・避難場所が2か所なので早急に1か所に

3 グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・学童の登下校見守りボランティア ・ソフトボール大会 ・ボーリング大会 ・花見 ・高齢者の見守り ・近隣の人との挨拶から様子を知る ・自治会行事（納涼大会、防災訓練） ・AED救急法講習（若い人の参加があった） ・年末夜警 ・老人会 ・子ども会との合同美化清掃 ・祭りの準備に意図的に若い人に参加してもらった ・NPO主催の食事会 ・民生委員として担当地区の全戸訪問（不在宅には挨拶の手紙を置いてくる） ・神社の境内でケアカフェの開催 など	・町内防災ウオーク ・安否確認制度の確立 ・3町会連合の防災訓練（防災ウオークもその一つ） ・老人会としてやれることを検討したい ・地域とかかわりを持ちたいと思っている人は多いはずだが、新たに参加するきっかけがわからない

4 グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・餅つき大会 ・夏祭り ・認知症カフェ ・コミュニティカフェのスタッフ ・杵形子供文化センターの行事を通じて子育て世代との交流を行っている ・三田地区ウォーキング ・三田すこやか活動 ・美化運動への参加 ・年末パトロール など	・公園ラジオ体操 ・ウォーキングまたはハイキング ・公園体操（来年度4月発足予定） ・杵形山の桜の花見の会 ・盆踊り ・防災ウオークへの中学生の参加

5グループ

現在行っていること	今後やってみたいこと
・子育てサロン「なのはな」・転倒防止体操 ・子ども会を招いてタケノコ掘り ・3か月までの赤ちゃん訪問 ・防災訓練 ・地域の花壇づくり ・公園の掃除 ・運動会、美化運動など子ども会と合同で町内会で実施 ・お花見の会 ・花火大会 ・三田台祭り ・ミニハイキング ・高齢者の食事会 ・防災テントを張る、防災グッズの点検 ・地域の草むしり、花植えなどのボランティアサークル ・ソフトボール大会 ・カローリング など	・町会の会員を増やすこと ・若い世代との交流 ・防災組織の見直し ・バザーの開催 ・ゴミの有効利用 ・要支援者見守り体制づくり ・高齢者中心としたお茶会や食事会 ・災害対策自助努力の啓蒙 ・町会での防災ウォーク ・老人会をつくる ・高齢者の集える場所づくり ・自由に集える場所 など

12月2日 第1回報告会



12月10日 第2回報告会

